



シリーズ
タンチョウ
Vol. 361

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

石下 亜衣紗

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



環境に合わせたタンチョウの生活～一味違う野付のタンチョウ～

鶴居村のみなさま、はじめまして。4月から鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに着任いたしました。石下 亜衣紗（いしおろし あいさ）と申します。

前職は釧路湿原国立公園のアクティブ・レンジャー、前々職は野付半島ネイチャーセンターで働いておりましたので、お会いしたことがある方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、鶴居とはちょっと違った野付のタンチョウの様子をご紹介します。

●海産物を食べている

野付半島・野付湾では4～5つがいが暮らしていますが、餌を採るのは海水域。潮の引いた浅瀬で小魚やアサリを採っています。時には名産品の北海しまえびも…。なかなかグルメな食生活ですが、塩分の取りすぎにならないのか心配になります。

●繁殖を開始するのが遅い

鶴居村や釧路湿原では早いものは3月末には抱卵を始めますが、その頃野付はタンチョウが帰ってくるかどうかといった具合。越冬場所から飛来し野付湾や河口の解氷を待ち、巣作りや抱卵を始めるのは4月中旬～下旬になるので、鶴居村周辺と比べると2週間～1か月ほど巣作りが遅くなっています。

●アマモを巣材に使う

「アマモ」は海に生える海草で、野付湾には多く分布し、海の生き物たちの暮らしを支えています。海底から抜け落ちたあとは、海岸に打ち上げられ、枯れて藁のようにたまっていきます。見やすいところに巣を作ったつがいは、枯れたアマモを集めて巣を作っていました。



アマモで作った巣で抱卵するタンチョウ

タンチョウの巣材といえば湿原にたくさん生えるヨシですが、野付半島にはヨシはそんなにないか、限られた場所になります。それに比べてアマモは岸にたくさんたまっていきますので、ヨシを折り取って集めるよりは簡単に集めることができるようです。環境に合わせて工夫した行動には感心しますが、このつがいは毎年塩湿地に巣を作り、春の大雨や満潮・低気圧による高潮で巣が水没しては再抱卵するばかりでした。

意外と学習しない姿にも驚かされます。

野付から釧路に来たときは、やっぱり釧路湿原のタンチョウは違うなあ～と思っていましたが、今になると、野付のタンチョウが独特だったのだと気づかされます。よくよく見てみると、タンチョウの暮らしも様々で面白いですね。鶴居村のタンチョウたちはどんな面白い暮らしをしているのか？皆様と共にその様子を観察して、伝えていきたいと思いますので、これからどうぞよろしくお願いします。

